

NO! リニア

No. 9 7

2017年2月3日

J R 東海労働組合

リニアの工事現場でヒ素検出! このまま突っ走ったら経営はどうなる?

2月1日付『中日新聞』は、岐阜県瑞浪市のリニア中央新幹線日吉トンネルの工事用地で、基準を大きく上回るヒ素、フッ素、ホウ素が検出されたと報道しました。

リニアの工事は南アルプスの東西で、東は山梨県早川町、西は長野県大鹿村で着工されています。リニアとほぼ同じ場所を通る中部横断自動車道では、トンネル建設の残土に自然由来の重金属が含まれ、処理作業により開業が大幅に遅れています（本紙96号参照）。重金属検出の問題は、リニア計画が出た時から指摘されていた問題です。岐阜県東濃地区ではウランの検出が心配されています（ウラン鉱床地帯付近にトンネルを掘る計画）。今後、各地で重金属などが検出された場合、建設費は想定外にかさむ恐れが出てきます。そうなれば、ただでさえ「ペイしないリニア」のために、会社の経営はどうなるのでしょうか。特に、J R 東海ユニオンの幹部の皆さんは、組合員のために真面目に考えるべきです、「責任組合」と言っているのですから。

大変な事態になる前に、リニア中央新幹線建設から手を引くべきではないでしょうか。止める勇気こそ、本当の勇気!

★基準超のヒ素など検出
J R 東海は三十一日、岐阜県瑞浪市日吉町の地下に建設するリニア中央新幹線日吉トンネルの工事用地で、基準値の一・四〜四・二倍のヒ素やフッ素、ホウ素を検出したと発表した。県は現場から半径二百五十メートル以内で、住民が井戸水を使用していないか調べる。基準超過が見つかったのは、トンネル予定地から南に約四百メートルで地上につながる非常口となる場所。昨年十月、深さ五十四メートルまでボーリング調査し、一月二十五日に結果が分かった。J R 東海によると周辺は山林で自然由来とみられ、発生土の処理を専門業者に依頼するなど対策を検討する。

2017年2月1日
『中日新聞』